



泰時明斷錄
一

28
不用



泰時明斷錄

一

4

~ 13
3367
1

3367
1

喜怒可以勸善
哀樂可以懲惡

大正十年八月廿九日
大正十年八月廿九日

北條泰時明斷錄

大坂

三木書樓梓

泰時明斷錄目叙

先子曰政事小鮮を言ひしが如し宜かき故に
名將も其罰す可き者我罰しては原をば
古き甘羅を懲らんとて其人を擯がはの言也
千鳥鎌倉の執権の二代北條氏武経泰時を
廉直なるを上に教ひ下は憐れむをば無く人の
知は可き既ふし傳ふ北條氏武経泰時の傳ふ



泰時頼が仁徳ふりて。于茲彼天に波行
 在。以茲執ふ時貴。吾智の明達を極
 方。今輯録と冊子を假。その徳行を世
 知む。爰今某の返愛録某の美徳を
 寸草の人以て珍む。卷を固く歎賞流る
 曲。吾子青紙摸稜案著。次于吾子
 堀川清遠を述系。俱よとま。公案の妙なる。

今世冊子と其趣を同ら。はるかに能く
 辨。殊に異也。吾官廢歳をう。味ひ
 吾氣。極向。稱え。然るも。

于時弘化丁未初春

金水道人頼



卷中標目

第一回 米舖妖猫の上 第二回 米舖妖猫の中

第三回 米舖妖猫の下の始 第四回 米舖妖猫の下の終

第五回 的中の察智并に 第六回 替者悪巧英醇醜の教諭
將基を辯ぎ

第七回 媼婦の嫁入 第八回 四條の納涼

第九回 舎弟の義心 第十回 明断邪正と分つ

通計十條目次畢

北條泰時明断録第一輯卷之壹

東都 松亭金水編次

第一回 米舖妖猫の上

わびややすらふらんくびのつるふ
そと文武の両道天下治世の経緯ありて。國家安民の紀綱あり。乱る
時、良將武威を逞く、四海は太平の地、静め、治る。世あり、明君
道徳を修め、萬民を淳化の澤に浴せむ。その故、文武の両論の
如く。もつ二の翼、小喻ふ。若くは、一は、缺則に、理改と、樛の基、而て、損敗
深きより、深き小まらざる。蓋君暗く、て、佞小親を、諛と、佞、下奢り、極
む。且、その、推成、偷之、勢、小、誇、て、奸邪、と、成、濫り。清廉、下、小、廢、と、
流、外、小、閑、え。憤恨、肉、小、生、と、禍、必、蕭、牆、の、小、より、起り。終、小、滅

亡の患成振く以ありとも。粵小兼久のむじ。人皇八十二代 後鳥羽院ハ
 御信成下させおひて一院もふ本院と称し。八十三代 土御門院中御位と
 下七中院と称し。八十四代 順徳院も。御信成下り居させ新院とを
 下ける。僅四歳小成ゆ懐成親王。御信成譲りおひて。此時之上皇ぞ在
 ける。武将へ鎌倉四代頼朝將軍ありし。御信成幼稚し。御信成
 弟北條左京権大夫義時と。尼御臺政子の内方の計ひおせ。屢我意
 の挙動多うり。一院後身。御信成憤り思ひ北條氏と亡し。弟義時
 御心の隨意任せおんと。内くその内企ありし。右大将頼朝以来
 天下武威小伏し。その命成重下背くものありし。や一天の君の思
 るまゆ。容易はらひと。その便宜成窺ひあふ。信濃國の住人。仁科

五郎盛遠とて。弓馬の達人ありけり。子息太郎六十五ふ及へど。のま
 元服も為させ。童を在ける。成宿願の肯申て。這回熊野へ同伴しけり。
 ふ。この時一院も御幸あり。その童と商ひ。いと清らう。童を召仕
 りんと宣ひて。西面とて。盛遠も園とて。参りて。仙洞へ
 伺ひ。いとと。数回ある。義時。成園及び。仁科。関東恩顧の者。を
 漫み仙洞へ伺ひ。將軍家と軽し。むら。仁科の領地。成
 波収せらる。仁科。大愁傷し。其。奏聞と。経。一院。驚き。ひ
 領地と返し。興。鎌倉。召命。あれ。義時。敢て。可。お。お
 於て。一院。憤り。思。其。頃。花。浴。高。亀。菊。の
 白拍子の標致。の。舞。の。雙。の。艶。女。の。折。院。中。へ。召。れ。

寵愛浅く。因て亀菊は。摂津國長に倉橋の。西在城賜り。
 其の地頭は。河内渡す。其の勅。地頭更。河内。
 亀菊怒て。その。直。奏。河内。
 義時。時。聽。入。地頭。
 平家。討。の。命。指。忠。勤。功。隨。
 改。易。す。更。あ。る。と。回。
 殊。小。逆。麟。あ。つ。て。是。より。
 武。吉。茂。招。き。あ。中。の。関。東。へ。志。
 七。百。餘。騎。を。記。し。け。項。の。義。久。三。年。

李が。召。ふ。意。せ。ざる。成。責。べ。し。能。登。守。秀。康。平。九。郎。判。官。
 八。百。餘。騎。光。季。が。館。小。押。よ。せ。三。三。小。責。し。伊。賀。判。官。
 子。息。壽。王。丸。諸。共。討。死。を。果。し。け。る。粵。小。於。一。院。の。
 身。も。一。族。と。引。佩。し。二。位。の。禪。居。の。前。小。參。り。
 也。ま。此。方。より。打。て。登。り。ん。や。と。其。の。評。定。と。あ。る。
 差。向。る。る。然。る。べ。し。評。議。一。決。る。事。あり。諸。軍。の。
 海。道。に。相。摸。守。時。房。武。藏。守。泰。時。と。將。と。し。其。勢。都。合。
 道。の。武。田。五。郎。父。子。小。笠。原。次。郎。父。子。將。と。し。其。勢。都。合。
 陸。道。の。式。部。丞。朝。時。と。將。と。し。其。勢。都。合。四。万。餘。騎。

万羽騎採み採で登るるどふ。然らば軍勢の隊分と做し。亮洛の内へを
 入るとまを尾張河を防ぐんと。大炊の渡り鴨沼の渡り。板橋の渡り
 気瀬の渡り。大豆途の渡り。その外九瀬の渡り夫々軍勢強さう向らる
 その勢合せて一万七千五百羽騎。関東の大軍小競まむ。十分が二の勢
 さる所竹へ分るる。善もあうる軍配あんと。喧くものもあると
 然るふ三道の諸軍勢。不日小馳登りうけと。命それくふふ命せあま
 衆寡固より敵し。九瀬の諸將皆あく打負京都へ引返せ。宇流
 瀬田もて防ぐべし。又の軍軍向られけし。是より竟み打負て軍勢
 京中み充滿し。まづ一院と鳥羽殿を推殺す。関東の指揮ふより
 一院と鳥羽と源成へ遷幸は。新院順徳。佐佐渡へ中院。院と土佐へ

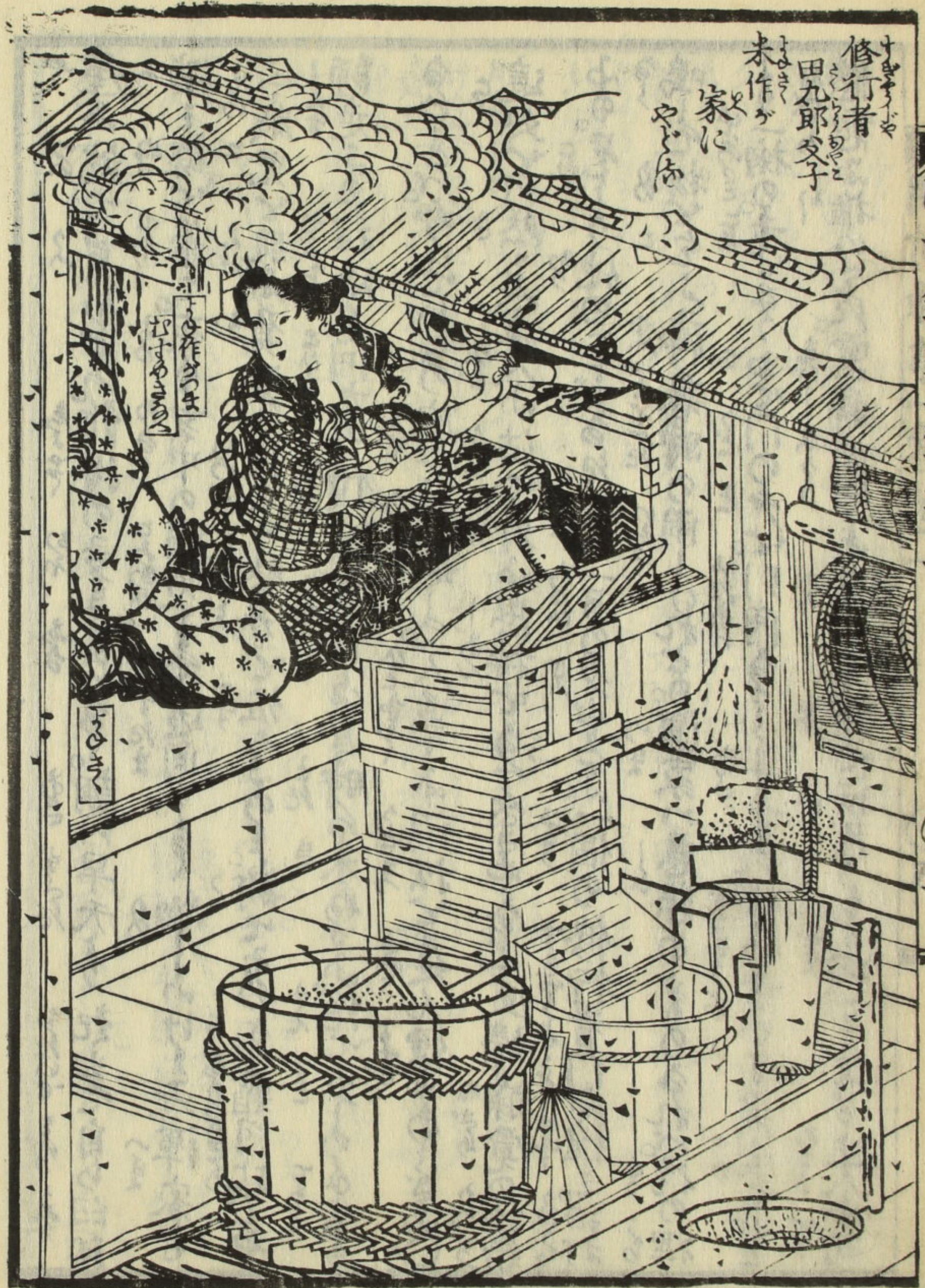
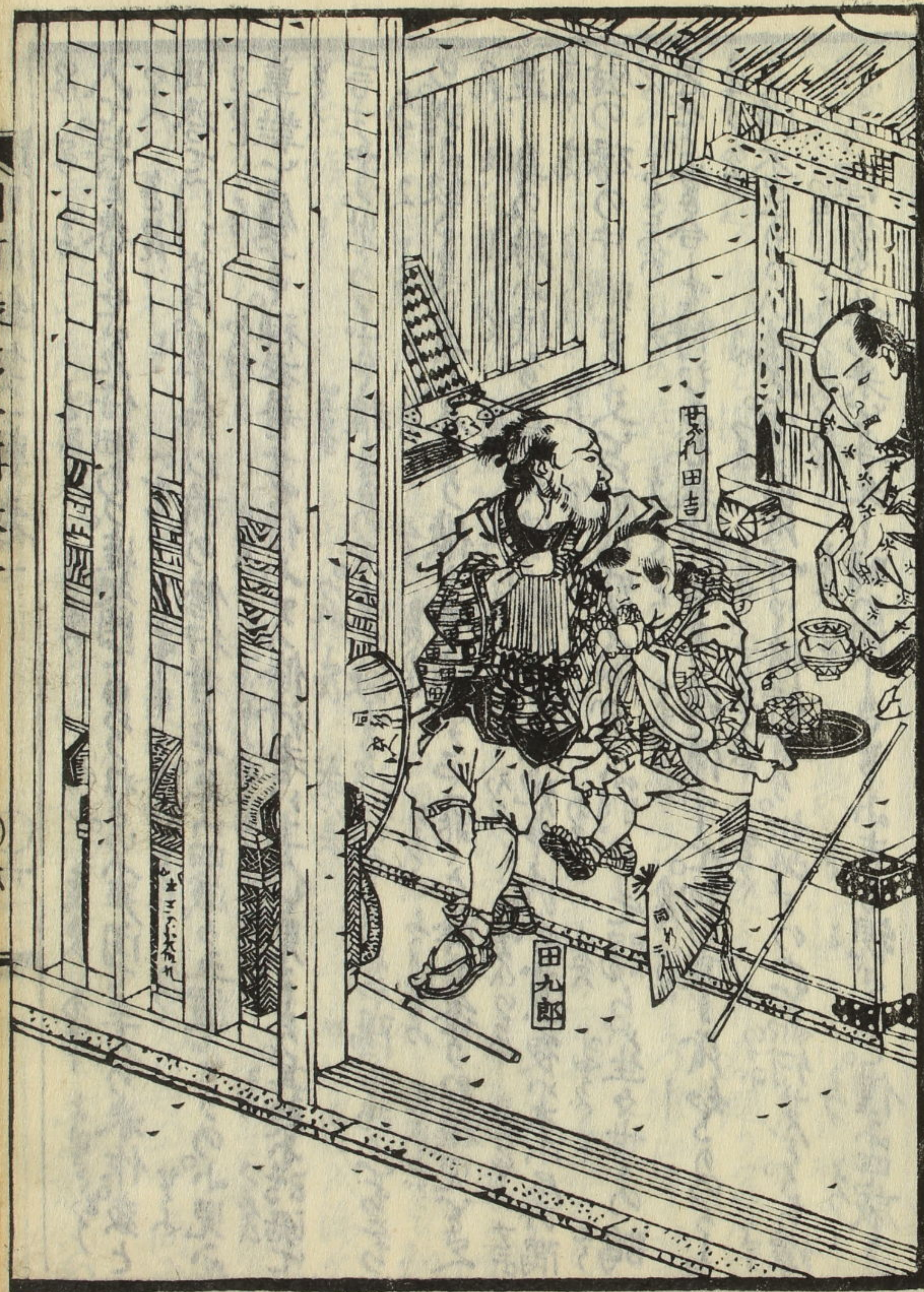
遷し。雅成皇子と。但馬の國に配流す。頼仁親王と。備前小流
 也。斯て新帝の御譲を受め。懐成親王の御事。いまも御即位の
 禮ふ行はし。則ち皇孫九條院を廢して。九條の廢帝とす。御くみ
 至りて國家一月も。君もん有べし。持明院守貞親王の御子茂
 仁親王と。位ふ即奉らせ。皇孫後堀川の天皇とす。御ける。
 按るふ北條九代記。持明院の御子茂仁親王と。位ふ即奉り
 皇孫後堀院とす。御ける。諸書に按るふ。後堀院とす。御ける。
 堀川天皇あり。疑らる九代記の誤るん。
 是より後の踐跡讓位。食とく。関東より。計らひし。知ありと。そ
 斯て花洛の争乱も。目も。静謐ふ及びけし。諸人安堵の思ひて。

月新録第一冊卷一

四

あり。商買賣買交易也。以前ふ倍て繁昌せり。則年号改元ありて兼
 久四年貞應元年とぞあらざれば。干茲大内守護の一日の請民の
 訴と聽その明新派逐らるるが六波羅の南北ふ館と補理南方の
 北條相模守時房美時の北方ふ北條武藏守泰時住めひて非常と誠
 めあひける。兩六波羅ふ守護と置る。此時よりこそ物まのけは是より前
 建仁三年の比花洛六條ふ米買あり。名米作とゆび做して夫婦が中に
 女児は儲け多。早苗と号り寵愛あり。此年のたる二歳ふとありふける。
 然るふらの米作の固より津後一遍めて活業ふ情の酒と飲で朝
 夕の貴が省き挿了ののう。如何ある前世の宿執るや家寂莫と食く
 きて本錢ふえ返るも。價易き代は物あり。買入るふあり。同

や屋ふ就て買わどふ。新得のきき品はる。朝ハ早天より起あて自ら白然
 踏と棟と簾と夜も支中の頃及ま。透間もく物ふけま。渾家も
 二歳児と肌ふ負ひて。良人の精力と佐々の。斯てその年霜月比たる
 師走の程近く問丸の債と。食債と。時未ぬるふ。絶て少のふ當の
 ちけま。かくてこの廊と持通して人並ふ。門松と。達人便のあま。ど
 這知と。然るまき入ふ。活て外ふ思按と。まきま。あど。主婦寐覚の物結
 ち。是より他のと。ま。扱も一月の夕。ま。ふ。一個の修行者。門。打
 鳴と物と。薄暮時の。開。けれ。渾家の。懸。あ。め。れ。の。裡
 より一掬の米と。ま。て。門の。引。閉。ま。ら。手。直。修。者。の。受。て。い。と
 懸。懸。推。の。ま。要。時。回。向。と。な。け。頼。て。は。成。ち。止。つ。直。る。ま。入。折



山王三六八丸

種々ある。用果勤もいふ。ゆそ返々ぬ昔結いゑぬ倍ふゆと。いひつ。灌子の
 温湯と汲。これのまこ。のま。とく。ま。あけ。でた。あふ。何のるけんど温
 ふゆ。あんととの家の澤家。赤心見ゆ。會釈。小。修行者。と。と。推戴。ま。
 且。拜。を。食。小。就。く。此。方。の。親。子。も。食。事。と。は。ま。い。頓。て。主。人。の。夜。延。小。か。り。
 澤。家。の。片。付。の。何。を。と。暇。を。た。ふ。巡。禮。の。見。へ。終。日。小。歩。ゆ。勞。れ。て
 父。の。膝。に。枕。と。り。と。寐。る。ゆ。と。小。澤。家。の。足。下。も。他。小。要。る。た。身。早。く
 て。あ。ん。の。ふ。波。如。の。小。子。合。へ。その。思。瓜。寐。さ。し。足。下。も。他。小。要。る。た。身。早。く
 勞。と。瓜。体。ま。一。絲。吾。們。へ。ま。ご。亥。中。の。頃。ま。を。は。さ。う。方。要。向。瓜。果。さ。る。寐。ら
 と。搆。ぞ。慈。と。ね。と。の。ふ。や。と。小。修。行。者。の。額。着。て。然。ら。ば。許。し。ぬ。れ。と。推。戴
 の。へ。免。小。角。小。思。ふ。任。せ。ぬ。と。妻。う。と。咳。き。つ。波。如。多。納。戸。へ。入。り。臥。ふ。け。

斯。て。その。夜。中。明。離。と。鳥。の。声。も。喧。ま。ふ。家。内。の。勿。論。巡。禮。の。漢。士。も。起。出
 ら。け。り。夜。の。間。小。雪。の。ゆ。積。り。て。北。面。の。軒。の。見。と。波。心。ま。が。瑕。を
 釵。り。と。思。入。氷。柱。下。り。注。還。の。方。と。ち。視。ゆ。小。早。天。あ。ま。人。の。通。る。ゆ。を
 此。処。波。如。小。雪。沓。の。跡。の。算。あ。る。斗。り。め。て。家。根。も。葎。も。白。銀。灰。便。ら
 如。き。その。狸。ふ。真。黒。く。見。ゆ。門。の。狗。脊。丈。小。雪。灰。を。荒。し。狂。ひ。ま。れ。る
 景。勢。の。実。心。地。ゆ。れ。ゆ。の。多。光。散。ぶ。ゆ。の。狗。の。ま。る。り。米。作。の。修。行。者。小
 う。ち。對。ひ。て。言。ひ。ゆ。う。思。ひ。の。外。あ。る。大。雪。ゆ。て。今。日。も。ま。ご。天。氣。と。見。室。め
 が。た。朝。の。ゆ。何。ふ。ま。れ。あ。の。雪。ふ。ゆ。ま。ん。も。便。る。所。為。あり。さ。と。急。な。旅
 路。の。濟。小。勞。と。あ。ん。と。の。へ。執。べ。巡。禮。が。何。小。就。て。推。戴。の。存。る。心。易

かのくさ。あつ三界の伴と。昔の人のよく言けり。連ののこふ今。月惠のあくと
 額着る。そのの易きとて。形の如く。朝餉も果米作。例の如く。臼踏
 傍み。渾まの心。懐き。小米と飾ひ。の巡禮。或詞敵。四方八方。けとを
 問ひ。或の死。洛ふ名高。る。神社。佛閣の。働して。暫く。時。移し。ける。巡礼
 屢。この夫婦。就。身。入。て。歎息。し。現。世。間。の。縁。との。い。い。とも。奇。し。き。の
 あ。う。ず。や。吾。の。越。後。の。生。ま。り。と。の。京。と。六。遙。み。隔。り。互。み。見。り。関。の。せ。ぬ。
 他人。も。れ。ども。縁。あ。れ。ば。家。族。も。倍。る。世。話。も。あ。り。つ。斯。馴。く。あ。り。物。語。も。これ。も
 前世。の。因。縁。も。あ。り。又。小。就。て。吾。身。の。う。人。晴。く。ま。く。い。み。條。あ。る。ね。ど。障。り。あ。る
 身。の。懺。悔。も。の。罪。滅。消。と。わ。関。及。ぶ。周。て。一。條。と。話。説。ま。う。さ。ん。面。白。う。う。ぬ
 因果。話。説。も。席。料。も。さ。ぬ。下。の。講。釋。と。思。ひ。て。関。り。あ。り。う。柳。音。脩。が。古

さ。あ。ら。ご。さ。う。さ。う。ど。も。う。う。親。の。代。より。太。物。及。荒。物。と。高。ひ。ら。後。で。城。中。も
 郷。の。越。後。鳥。坂。の。城。下。で。親。の。代。より。太。物。及。荒。物。と。高。ひ。ら。後。で。城。中。も
 出入。ま。れ。ば。富。め。あ。る。ね。ど。貪。り。う。い。ひ。然。る。ふ。父。母。も。穉。世。の。吾。の。親。と。あ。る
 あ。る。親。も。倍。る。身。代。も。倍。る。と。心。成。励。ま。朝。の。早。天。て。終。に。終。了。
 甲。斐。あ。り。て。聊。の。金。銀。も。え。ん。な。る。程。あ。り。つ。斯。の。巨。利。の。貨。奴
 滑。る。も。然。の。こ。難。き。と。あ。り。つ。猶。油。断。り。物。す。る。り。と。ふ。城。主。さ。る。長。茂
 主。の。つ。あ。る。天。魔。の。物。有。る。わ。京。都。も。至。り。て。禁。中。成。驗。が。一。斯。と。志
 願。の。青。も。恨。む。も。吉。野。と。ゆ。ん。へ。逃。籠。れ。一。成。最。一。と。詮。議。も。成。り。し。と。く。
 竟。み。自。害。致。し。あ。ひ。ぬ。と。し。因。て。越。後。も。止。ま。る。長。茂。主。の。甥。の。刀。称。小
 太郎。資。盛。も。安。穩。あ。る。と。此。方。より。發。動。せ。癸。一。の。人。軍。兵。等。不。目。ふ
 鳥。坂。へ。押。寄。せ。て。修。羅。國。諍。の。巷。と。あ。る。ら。ふ。於。て。吾。と。と。た。商人。も。と。り

希る小絶を。資財難具と持運び。老より成曳き幼稚扶けて。諸方へ逃
 散りどよ。吾侪も在りぬ黄金成収め。その児ハ漸く二歳る。成。渾家小資
 せそ家と逃出されど。はた方々。然りて世の野へ。聊心強く
 あり。周圍三條の此方ある。深尾といふ。片山里小。密に需めて住居。がま
 より。後の治業あり。野へ。黄金成りて。親子と人。がは成。過ぎ。兎角。す間。小
 鳥坂の軍。の落。形。し。れども。城。の敢。多。没。落。して。今。故。郷。へ。飯。る。こと。活。業。す
 べ。れ。便。る。し。如何。お。せ。ま。し。と。化。す。も。送。る。と。み。し。二。年。服。り。過。し。て。去。年。の
 九月。中旬。渾。家。の。飯。初。の。感。冒。より。稍。小。重。り。て。熱。強。く。夜。と。あ。く。日。と。あ。く。
 正。乳。成。失。ひ。謔。語。の。と。言。て。ぞ。良。も。ま。ま。合。破。と。記。て。外。面。へ。馳。せ。んと。す
 ことの。数。回。も。と。び。の。便。る。し。と。夜。も。睡。り。て。心。配。る。よ。その。児。の。し。ま。む。三。歳

折く乳房尋ねて。泣叫ぶ。ある。その。勢。と。関。と。死。の。亦。更。小。胸。小
 釘。打。思。ひ。ひ。と。片。山。里。の。哀。し。く。如何。中。を。訊。ひ。来。る。人。も。多。く。況。て。人。と
 雇。い。ん。も。容。易。く。な。る。一。ツ。も。跡。先。者。病。一。夜。中。勞。れ。て。雲。時。間。睡。間
 小。渾。家。の。寢。所。の。空。蟬。の。裳。脱。の。売。小。在。り。と。さ。て。の。廁。へ。注。ぬ。ると。心。許
 多く。紙。燭。を。點。し。廁。と。な。れ。其。如。く。指。於。這。不。測。や。と。隈。と。探。せ。と。絶
 て。糸。由。り。の。け。ね。ば。扱。と。後。を。熱。小。花。され。良。も。す。ま。ば。外。面。へ。出。んと。す。成
 押。へ。る。寢。穢。あり。も。初。の。飯。間。小。何。地。へ。注。り。と。ん。然。り。と。て。扱。と。入。り。と
 ね。矢。庭。の。炬。火。を。燈。り。の。後。退。り。て。思。ふ。ゆ。雅。見。一。個。家。小。並。ん。と。れ。由
 ま。し。便。る。し。と。身。一。ツ。と。内。と。外。誰。小。詰。り。人。も。多。く。え。と。が。ら。の。見。前。後
 由。知。り。て。熟。睡。し。と。れ。ば。その。間。小。其。如。く。涉。り。探。さ。んと。是。小。任。し。と。狂。出

これど何方と當との人もあ。善悪も分ぬ暗き夜も山路をまづ平らなる
 心のも急ぎ道そ。小川の老のへ来りーとた。思へむ物も蹴きて。礮と倒
 して痛も覚へた。頻起よりて右視るふ。ぶーく。渾家の形あり。腫せ
 めて克をまづ。まは断離て腹まも半壊まそ。大腸小腸血も泥まは。渦
 高く。頭へあれど面射。其知ぐ耳とも鼻ぞも。見分ぬなり。小咬裂れ。い
 糸するふ。涙と。呻吟来。狼まどの。悪た。獣ふ出會て。咬殺され。の
 ろん不便との。も愚めて。哀と。悔と。腸も。沸る。如く。思へ。も。扱。如。何
 と。詮。方。あ。く。ま。い。渾。家。の。非。ど。ろ。ろ。と。陥。り。の。こ。も。疑。が。ん。ま。く。心。で。ま。あ
 る。視。る。ふ。その。面。射。と。そ。分。が。く。ま。い。衣。は。ま。う。ふ。渾。家。の。衣。紛。ら。う。ま。た
 狂。難。い。ら。る。神。の。崇。り。ふ。く。と。替。力。も。腰。も。扱。ら。う。が。ま。く。信。と。思。ひ

返して死し。る者。歎て。回ら。び。と。今。已。が。ま。う。ま。如何。と。詮。方。を。一。夜。の
 明。る。ま。で。遺。り。あ。く。咬。を。咬。へ。今。ま。う。ふ。何。り。惜。ま。ん。ま。う。の。推。ま。の。の。遺
 了。と。喘。て。ま。帰。り。身。を。ま。の。見。へ。筒。の。も。熟。睡。る。一。ら。白。灰。を。ま。ま。が
 暫。く。安。堵。し。胸。を。卸。し。水。灰。洗。も。稍。心。灰。落。垢。に。夜。も。明。ま。る。人。と
 伴。ひ。か。の。尸。灰。収。め。を。返。ら。う。いと。要。時。間。睡。ら。う。一。急。り。が。渾。家。の。命
 み。あ。り。け。ら。う。人。の。命。の。天。み。あ。り。ま。も。逃。ま。ぬ。命。救。ま。る。病。重。り。て。死。し。と
 ら。ん。の。ま。ま。明。む。便。も。あ。ら。ん。と。獸。の。為。も。咬。る。と。の。渠。も。同。果。此。の。因
 果。ま。る。是。前。世。の。宿。業。ま。ら。ん。と。種。も。思。ひ。回。し。て。も。恩。愛。の。羈。断。易。う。う
 び。寐。も。や。う。且。び。夜。の。明。る。後。今。の。と。侍。り。あ。ま。ら。ず。秋。の。夜。の。いと。長。や。う
 ま。て。問。ゆ。の。斗。り。も。胸。苦。し。く。ま。そ。夜。の。や。う。く。明。し。く。村。長。許。性。に。如。此。と。

頼み一條あり。まなく他あり。ほど深くある介抱。心地少し。後れ。今宵限り。うたふ。あつ。翌日中ま。まの命絶るん。まの泣く。惜れ。ねど。心小懸る。躬の。この。程の。言せ。如く。母の頓小死。別見。今ま。父小別。且その。使る。方。あ。孤の。飢て死せん。眼。前。を。子。故。小。迷。親。心。昔。身。と。俱。小。冥。場。と。巡。拜。を。し。の。あ。る。が。その。功。力。り。その。親。の。倍。身。も。あ。る。ん。と。空。持。り。あ。る。此。月。日。路。の。波。も。須。辛。ト。伴。ひ。し。り。し。も。画。餅。と。あ。る。ぬ。哀。れ。主人の。慈悲。張。り。て。渠。が。よ。良。辰。伸。し。て。祈。ね。成。長。さ。る。の。後。に。や。ぬ。酒。鋪。の。小。厮。小。ま。ま。と。ま。ま。と。此。家。を。て。塵。の。と。お。は。つ。つ。と。心。小。任。ひ。が。士。二。ふ。あ。る。ま。ま。の。暑。さ。寒。さ。の。も。當。ら。う。る。習。算。盤。の。稽。古。さ。と。賜。ら。う。の。あ。る。ま。ま。で。十。分。

小関入の。ま。ま。と。と。後。を。あ。る。の。人。を。米。作。の。因。も。敢。て。う。ち。笑。ひ。ぶ。あ。る。と。残。さ。る。の。あ。る。足。下。年。も。ご。ろ。干。小。ま。ま。と。如。何。中。の。尚。の。極。で。の。案。ト。う。し。が。今。と。あ。る。血。色。も。よ。く。気。力。も。強。し。争。で。命。の。論。也。及。び。ん。然。道。人。の。命。や。ど。智。さ。が。た。め。の。あ。け。ま。が。萬。ふ。つ。も。足。下。が。身。小。不。慮。の。と。の。あ。る。ん。ま。の。元。来。樞。機。の。あ。る。の。あ。る。四。歳。児。と。突。お。し。遣。ま。ん。や。と。の。ふ。巡。禮。の。う。ち。飲。び。足。下。支。拂。が。憑。し。る。あ。る。な。あ。此。人。小。言。べ。た。ま。ま。の。假。令。野。の。末。山。の。奥。も。死。す。る。も。詮。方。あ。ん。と。斯。く。憑。の。人。の。許。も。死。す。る。も。則。大。慈。の。利。益。躬。も。そ。う。て。傲。倖。る。嗟。有。難。し。く。と。支。拂。と。救。回。し。拜。の。叔。父。の。後。の。中。より。と。張。支。庫。と。把。お。し。と。蓋。と。用。ま。そ。一。通。の。

証文めたるもの。帛紗小包。一品。其の重さ。其のふた。その一通。故
に瓜。物。たる。菩提院。より。書。典。なる。緒。固。性。未。の。形。多。是。の。昔。侍。と
駱。名。ま。その。在。所。の。一。く。記。し。且。ま。何。方。の。里。小。於。て。果。る。ま
その。所。へ。葬。り。入。り。の。文。財。の。ま。終。る。ま。終。る。ま。是。の。取。重。と
賜。つ。足。下。等。苦。勞。多。し。と。その。帛。紗。小包。の。の。長。途。の。路。費
の。准。備。も。ま。元。小。の。浮。り。足。と。収。め。持。出。れ。巡。禮。父。子。の。結。句。人。の
憐。れ。も。の。て。路。用。雜。費。小。緯。納。を。故。小。の。ま。此。如。小。存。り。と。且。足。下。等
小。参。り。す。入。り。の。駱。名。を。入。小。宛。て。あ。る。し。と。の。小。木。作。ま。が
其。文。と。も。小。把。て。披。き。身。小。越。後。の。國。蒲。原。の。郡。深。尾。の。郷。田。九。郎。生。年
四。十。六。歳。同。駱。田。吉。生。年。四。歳。這。回。心。願。の。旨。あ。り。て。諸。國。灵。場。と。巡。拜。し

り。道。路。を。相。果。る。ま。の。所。へ。葬。て。此。方。へ。届。小。及。た。同。國。同。郡。香。華
院。と。記。し。て。大。き。さ。る。印。と。押。し。米。作。以。見。終。り。て。ま。づ。傍。小。商。の。頼。り。の。帛
紗。づ。と。瓜。開。き。て。見。る。小。判。幣。二。百。五。十。枚。あ。り。け。り。と。小。駱。名。に
眉。須。髪。め。て。渾。家。と。見。え。り。と。田。九。郎。小。對。ひ。足。下。等。思。小。倍。す。
と。大。枚。の。金。子。多。し。吾。們。い。せ。小。幸。多。し。朝。多。多。小。油。断。多。し。挿。し。と。藥
を。年。も。未。だ。見。ら。ざ。り。と。た。の。寢。た。り。と。人。も。多。く。知。ら。る。小。斯。大。枚。の。黄。金
が。謙。ら。と。遣。ひ。と。怪。ま。し。ん。故。小。ま。づ。の。黄。金。相。對。と。受。が。一。其
と。足。下。多。く。小。死。す。る。と。の。ま。と。有。べ。り。と。半。小。の。果。も。り。官。家。へ。新。へ。く
ま。づ。指。揮。小。任。せ。ん。の。と。田。吉。が。と。心。易。ま。と。黄。金。の。工。の。諾。ひ。が。一。と。の。小。田
九。郎。点。頭。て。足。下。等。史。婦。が。正。直。多。し。の。と。以。て。憑。り。心。操。る。小。の。金。紙。が

とくく 免ても角ても譲りて。如何の中は下が宣ふ如その所謂たふあはね。
 吾も自足下等ふ是と譲り参らすとの証文と認め。贈らば何の仔細
 うあゝん 頼硯と借しあへと。懐紙へさうくと件の類どうの認め。
 添てさし出ひあぞ米作もその渾家の渠が志気厚く感。
 づの。頼ふ回答と做し兼ら。良あて渾家のの中。斯までいふ受納
 めびの推見田吉が往末の世結成すまき心名と疑ひ思ふものあつらん。
 終るが金の黄金の快。田九郎主がの隨意。此方へ受納めを推見が
 往末と安堵しあへ。計らる。是ふ頼らる。とあはし。とあふ米作点。
 のみ知有理。然るに此黄金の喜。きみ譲り受ん。憐而推見が身の
 上は吾も夫婦世も在程の必しも見捨べう。

ひらり 一個の女兒あり。名は早苗とて二歳ふありぬ。田吉は四歳。
 長あまふ。一對の夫婦を思ふふあり。必田吉は早苗と娶。
 家の跡と譲る。田九郎の堂。米作夫婦。
 めて吾の死するも。聊思ひを。辱きの夫婦の人。
 あり田吉と近く呼ぶ。今あり此処。二人の衆。爺さな嬢さな。
 あり。大人あり。可頼て。成さ。孝行。
 爺の極楽。遠の國へ。今。忘れ。
 氣ふ。解さ。平生。その景勢。遠の國へ。
 膝ふ把着。泣米作。渾家の戸。
 子。泣の。母が清水の。



米作人の
勸め
後妻
晩稲
迎

泣くくと賺されて。実中も罷多々雅児の。熟柿と右も小持あつ。前後も
 知るぬ。後藤入渾家へ抱きて此方小卧る。早苗と俱小蒲團敷ちる。を
 さて良人ふうち對ひ。吾もぐ心裡。一点偽成のふあねど。彼人の辨成見
 るふその病ひのいと重。翌一日も覺束る。然もび息ある其中。のい
 安堵を存きて。種も考へ侍まで。別小施をも服も。戯れ小近所
 ろる。既小早苗と田吉と。夫婦小せんと約す。成りて互小幼推のまね
 仮小婚姻の盡て。彼人の眼前も。を存す。安堵して。極樂浄土へ
 至るべし。とのと如何と思ひ。あつ。の米作も成拍て。吾も終もその思ひ。是
 今宵のいそ更蘭て。殊小二個も熟睡。翌朝のち計らひんと。支
 より支婦の寐も。ゆび心なるの。餐膳と取青小。も。も。厨小在合の品と

のて。その形をう成調へ。頓てその夜も明。二個の児供と。覚し。
 さて田九郎も如此。この。成結目。をそれ因て。主人支婦が赤心。成
 感佩して止ま。頓て田吉へ田九郎が傍小形。早苗へ米作が傍小形。は
 その渾家自ら配膳。七三三九度の。未いと遠き。三歳児小四歳児。只
 親ぐ心の底。成固む。計りの内祝言。田九郎のい。歡びて。漫小涙。流
 け。嗟有。辱。支婦の者。成拜む。外更小詞も。多。け。斯て
 その日の黄昏。小田九郎空。く。あ。れ。米作へ。組合。ある。甲乙小。と。れ。て
 告固。知音の者。あ。る。回。國。小。如。此。と。あ。る。且。故。郷。あ。る。菩。提。寺
 より。興。え。ら。れ。る。形。あり。と。が。の。書。物。と。見。せ。し。如何。も。仔細。あり。と
 づ。び。と。て。直。小。米。作。が。菩。提。寺。へ。も。その。よ。成。着。て。葬。りの。と。成。持。め。異

儀のあり。其夜亡骸が野を送りして返薦佛事懇懇ふ。七日坊布ひ
 けり。斯て米作の思ひの寄らばいと大枚の黄金が得られべし。同丸の
 債は始め。その他の借錢は。みも残り多く償ひて。又より金と首ふるひ。
 價安き代呂物とて。幾干とも多く現金を買込りて。今今六賤めり。し
 人々も。多く恥思ひて。何時となく檀那とて。称めり。どふありし。と性未
 律儀の米作も。六聊も高慢也。然れども。麁の狭くと。活業も便な
 けし。五間口も建継て。米搗漢士も多く抱へて。賑へく。做す。どふ得
 意さるも。忽地殖て。びりの貧苦の夢をみる。今今不足ある身とあるを。
 こと今今田吉が親も。田九郎が恵も。因まると。朝夕茶湯香華を。使へ。
 先祖と等。こと。祀り。且田吉も。早苗も。倍て。勞り。音ら。ければ。家

まより。繁昌して。暴ふ年の五。弱だ。し。思ひある。人。同
 一生の糾へ。纏の如し。吉人の喻へ。今を。米作。支障。限り。多く。む。た。お
 とありし。の。歎び。思ひ。その。間。多。その。明の。年。は。夏。の。始。り。渾家の。感。冒。の
 心地と。打臥。し。り。し。な。稍。小。車。と。今。今。函。所。の。効。も。米。作。の。只。宿。小。神
 小佛。願。籠。して。昼。夜。も。び。傍。小。居。て。看。病。苦。困。多。び。と。の。人。も。是。を。平。死
 定業。多。ふ。や。水。無。月。の。初。旬。ふ。あり。いと。苦。り。き。暑。み。ひ。ひ。と。の。特。少。く
 あり。既。不。倅。切。んと。する。時。小。渾。家。の。良。人。ふ。うち。對。ひ。這。回。の。病。多。く。ふ。
 急。り。ん。と。思。ひ。も。よ。び。世。ふ。る。人。の。數。ふ。入。る。べし。その。始。め。より。心。筋。尽。し。
 看。病。あり。る。有。難。さ。の。勿。躰。多。く。を。思。ひ。付。れ。然。し。此。ま。死。つ。る。も。聊。思。ひ
 め。ひ。ま。け。れ。ど。心。不。掛。の。早。苗。が。ゆ。と。ま。田。吉。が。お。の。う。ん。む。ん。身。ま。ま。さ。る。

在。且兩個の推兒のまゝ男のまゝを詮方多く。後妻と逢へるん。そは一点
 ありの如くおのれねど。克ちの素性と心操とを以て迎へ多く。継母の継
 母憎む。あつれねと成倣へぬ。元ての人の情とや。古き書も載せあり。
 況て田吉の養理いと深く。糸畧ふるまふまゝのあつて。その身も後とよ心
 得ぬとあつて。時お把て男の威中計り難きとあり。只心得ぬと。
 言さるゝのいそごひ。米作點頭て。まごのまゝに成り遣はせ。たは病
 細りつゝそのまゝ。愈々おん。勉て成り遣はせ。妙薬奇術成
 養求めて用ひぬまごも定業のや。竟お果敢多く。米作天お仰
 ぎ。地お俯て悲しめども。性て還らぬ真途の秘止む。ものあつて。お生お
 久し。吾妹子が。逢へると有明の月お照る。蜀魂八声啼つ。お生お

みけまご推兒の枕方後方お携りつた。母さる喃と泣声ぬい。哀まごの
 十方鏡曇る。眼とけ拭ひ斯てあるまゝ。あつて。甲乙成
 招き頻て葬送の準備と倣へ。いと懇懇お野を送り。七七日の退薦
 も。淫く宮を果ぬべし。再説まごぬ月の早くもきて。四十九日百箇日の夢の
 中お過性。今お冬の始とありけり。実お去者へ日くお疎く。まごも
 放れぬ兩個の推兒。麿の漢士が取締も。まごのけの届ぬ哀れ
 物毎よく心得る。人のあまじしと思ふ。おの親身おあつて。
 如何いせん。困下ら。折節日来性。人の免や斯と世話する。まごも
 恨ぬ宿の渾。お遅く。れ速く。れ持。おまごも。百箇日も。過ぬまごも。
 昔。お思ひ。おその容子と。お竹方お勤。おり。

這回暇と乞受て終るき縁と求むとのみ年々二十四五あり。米作ハ
 三十七七その年頃も相應せりと切ふ勸む入のむ六終ると是とた終
 る。吉日と擇とて納菜が贈り頼て近ひらう。近隣集會来て秋
 び演樽者その他寿筭女舞節これ劣らドと祝の進物亦が二積
 累福相生祝ふ島臺ふ千歳の末と壽さる。更ふ賑ふ座敷の神家
 樂互ふ移り替るとと世間の景勢あり。柳らの後妻ハ下と賣とのみ
 所ふ尾花屋とへる小間物賣の由縁の者もて晚稻とへる。這回濟所の
 暇と乞てこの尾花屋ふ折ら折らも縁終の整ひらう。則尾花屋が親
 家ゆて米作許へ来目ら多う。了得ハ折折の勤め一のらと。米作勸ら
 弟のゆ。是然あしく身装もいと毛致と替るむとふ。米作ハその色も受て

廿三ハ
 五冊二十。

是とて。米作ハ。大方内外の進退。晚稻も任らう。けり。畢竟
 是も。晚稻と娶りて。後ふ如何多。諸親らも。弟二の表。演得て。知ら
 べし。

日新集第一輯卷一
 一條泰時明断録第一輯卷之一終

